

**令和5年度 ゲノム医療実現バイオバンク利活用プログラム**  
**(ゲノム医療実現推進プラットフォーム・大規模ゲノム解析に向けた基盤整備)**  
**中間評価 評価コメント**

No.	評価課題名	研究開発 代表者名	所属機関	役職
000-001	大規模ゲノム解析に必要な計算基盤構築とゲノム解析に関する研究	山本 雅之	東北大学	教授

**【評価コメント】**

当初計画された研究開発はいずれの項目も順調に実施されており、目標をしっかりと達成している。

東北メディカル・メガバンク計画で実施する10万人全ゲノム解析については、スパコン上に計算環境を整備し、当初よりも早いペースで解析を進め、その解析結果より構築したリファレンスパネルを速やかに公開した。さらには、オミックス情報（メタボローム情報、脳画像情報等）、健康医療情報（介護保険情報、レセプト情報、服薬情報等）を着実に集積し、これらの情報を統合・知識データベースに格納して提供を進めている。

これらの情報へのアクセスの促進のために、遠隔セキュリティエリアの増設、並びに利便性の向上に取り組んだ結果、利用者数は順調に増加した。具体的には、セキュリティを確保しつつ設置コストを削減できるよう、遠隔セキュリティエリアの設置要件の緩和を実現した。さらにアウトリーチ活動にも積極的に取り組み、幅広い年齢層の見学・視察を受け入れ、次世代ゲノム医療の基盤構築の重要性をアピールした。

一方で、Data Visiting 型のデータ共有については、利用し易い環境整備のための更なる考慮が求められる。遠隔セキュリティエリアの設置要件緩和については、UK バイオバンク等の取組も踏まえ、セキュリティを担保しつつデータ共有も可能な研究環境の改善について引き続き取り組んでいただきたい。また、この領域の人材不足が深刻化していることに鑑み、本課題においてゲノム医療とスパコン運営の両領域の知識と経験を持つ人材の育成について、これまでの取り組み（企業セミナーや若手職員 OJT 等）の更なる発展を期待する。